

令和5年度 サンジュエリー 事業計画

事業所名	サンジュエリー	
施設長	小谷 昭則	
実施事業	生活介護・施設入所支援・短期入所・日中一時支援	
開設年月日	平成13年4月1日	
所在地	鳥取県倉吉市福守町452番地	
正規職員(総合職)数	9名	
正規職員(一般職)数	5名	
準職員数	フルタイム：2名	パートタイム：0名
契約職員数	フルタイム：6名	パートタイム：6名
定員	生活介護・施設入所支援 30名 目標利用者数 29名/日 利用率 97% 短期入所 2名 日中一時支援 1日1～2名	
職員配置	施設長1名 サービス管理責任者1名 業務主任1名 主任生活支援員1名 生活支援員14名 看護師3名 作業療法士1名 栄養士2名 調理員2名 事務員1名 宿直員1名 計 28名	

1 基本方針

- (1) ご利用者様一人ひとりの個性を尊重し、自己の生活環境を生み出していけるよう支援を行います。
- (2) ご利用者様の意志及び人権を尊重し、権利擁護、虐待防止の意識を強く持ち、自立及び社会参加へのより専門的な支援ができるようスキルアップに努めます。
- (3) ご利用者様とのコミュニケーションを増やし、傾聴してご利用者様個々のニーズを引き出し、安心・安全に生活実現が図れるような施設を目指します。
- (4) メンタルヘルスケアを実施しながら、心身の健康状態を把握し職員が情熱を持って仕事に取り組める環境づくりを進めます。
- (5) 地域貢献を通じて理解と信頼を得ると共に、地域福祉の充実の一助となる開かれた施設づくりに努めます。

2 運営

『思いやり』と『感謝(おかげさま)の心』をもって、ご利用者様・ご家族様及び、私たち職員が幸せを感じることでできる施設づくりを目指します。

(1) サービス管理・自立支援について

ご利用者様の意向、趣向、障がいの特性その他の事情を踏まえ、ご利用者様に対して障害福祉サービスを提供するとともに、その効果について継続的な評価を実施することにより、ご利用者様に対して適切かつ効果的な個別支援計画に基づく自立支援の確立に努めます。

① ご利用者様へのより良い支援を迫及しながら、支援内容に関する評価を実施します。(1人につき1回/月)

② 個別支援計画の定期的な見直しを行います。

(原則：1人につき1回/6ヶ月ですが、必要に応じ適宜見直しを行います。)

③ 相談支援事業所が作成するサービス等利用計画を踏まえ、ご利用者様に必要な支援は何かを追求し、より具体化した個別支援計画を作成します。

(2) リハビリテーション、機能訓練について

ご利用者様の日常生活を営むのに必要な機能の減退を防止するため、全職員がご利用者様の身体機能の維持・改善を図り、基本的行動・日常生活動作の向上、介助量の軽減を目指します。

- ① ご利用者様が保持している機能を活用し、機能状態に合うよう作業療法士を中心に多職種が連携してリハビリテーション実施計画書を作成します。
- ② リハビリテーションカンファレンスを実施し、定期的実施計画書の見直しを行うとともに、個々の身体機能評価を実施します。(1回/3ヶ月)

(3) 調理業務について

栄養管理の充実を基に、衛生面・感染症に留意し安全性を確保しながら、食への楽しみや幸せを感じられるよう努めます。

- ① 各職種と共有、連携しながら、ご利用者様の身体状況・栄養状態を把握し、健康維持を図り、一人ひとりに適した食事形態また盛り付け及び工夫した見た目等も配慮して提供します。
- ② 嗜好調査・残食調査を実施し、ご利用者様の好き嫌い、食事量の変化を調査、意見を取り入れて献立作りに活かします。
- ③ 地産地消を心掛け、新鮮・衛生面に留意し、安心・安全な食事を提供します。
- ④ クラブ活動で栽培、収穫した野菜を提供し、楽しみと食への喜びを分かち合い、また、ご当地メニュー、バイキング、手作り料理等行事食を取り入れ、変化に富んだ食事を提供して食への楽しみを増やします。
- ⑤ 感染症の侵入を防ぎ、食中毒予防の徹底と衛生マニュアルに従った業務に努めます。

(4) 看護・医療業務について

日常生活の中でご利用者様が安心・安全に生活していただけるよう表情、動作を注視することにより健康状態、体調変化を早期に把握して素早い対応に努め、健康管理体制を強化します。

- ① ご利用者様が健康で安心して生活できるよう看護職員及び職員全員が医療における安全の必要性・重要性を認識し、安全管理の確立と安全な医療を行います。
また、家族、嘱託医、協力医療機関との連携のもと健康管理に努めます。
- ② 感染症の防止、蔓延を起こさないよう室内温度・湿度の管理、施設内の換気を日常的に行い、また、知識・技術を高めるため、感染症予防、感染汚物処理方法など専門職員の指導の下施設内研修を行い、常に最善の対策を行います。
- ③ 喀痰吸引・経管栄養の必要にご利用者様が安心・安全に生活していただけるよう指導看護師が生活支援員(認定特定行為業務従事者)に必要な研修を行います。

(5) 権利擁護・虐待防止について

ご利用者様が安心して快適な生活を送れるように、ご利用者様の権利擁護を積極的に推進し、虐待防止及び早期発見と身体拘束の適正化を基本に置いた切れ目ない支援体制を構築します。

- ① ご利用者様の個性を理解し日常の介護で個々に合ったサービス提供が出来るよう努めます。
- ② ご利用者様の意見を取り入れQOL(生活の質)の向上に努めます。
- ③ ご利用者様に対する不適切な言動や態度、心理的外傷や不快感をもたらす対応とならないよう、常日頃から接遇向上に向けた取組みを行い、適宜ご利用者様の適切なケアの見直しを実施します。

- ④ 虐待防止のための措置として、責任者の設置、ご利用者様に対する虐待防止啓発のための定期的な研修への参加、権利擁護、苦情解決体制の整備、自治体における虐待防止に関する相談窓口の周知等に努めます。
- ⑤ 職員のメンタルヘルスケア、虐待防止職員セルフチェックを定期的に行い、虐待発生を招く原因を取り除くように努めます、また、常時面談・相談の機会を設けコミュニケーションを図るよう取り組みます。
- ⑥ ご利用者様の尊厳と主体性を尊重し、身体拘束を安易に正当化することなく職員一人ひとりが身体的・精神的弊害を理解し、身体拘束をしないケアの実施に努めます。

(6) 運営・管理について

施設の安定経営と適正なサービス提供確保のために以下のことに努めます。

- ① 関係法令を遵守し、適正な施設運営に努めます。
- ② 施設サービスの質についての満足度調査や自己評価を実施し、改善策・改善計画を検討し、サービスの質の向上を目指します。
- ③ 職員が明るく生き活きとし、組織人としての連帯感を強め、働きがいのある職場環境の整備に努めます。(面談による意向調査、ハラスメント対策等)
- ④ 業務改善を推し進めることにより、効果的かつより質の高いサービス提供体制の確立を図るとともに、働きやすい職場環境を目指します。
- ⑤ 節電の他、各種経費節減及び利用率の確保に努め、安定的な施設運営を目指します。
- ⑥ 個人情報保護を徹底し、プライバシーに配慮した環境を構築します。

(7) 会議・委員会について

ご利用者様へのサービス内容の改善及び職員組織の活性化と資質の向上を図るために次の諸会議、委員会を実施します。

- ①職員会議 (月1回)
- ②支援会議 (月1回)
- ③給食検討会議 (年5回)
- ④防災会議 (年4回)
- ⑤虐待防止及び身体拘束適正化委員会 (月1回)
- ⑥リスクマネジメント委員会 (月1回)
- ⑦感染症対策委員会 (月1回)
- ⑧QOL向上委員会 (月1回)
- ⑨苦情解決委員会 (随時)

3 主な実施事業

(1) 施設・設備整備計画

エアコン設置他 21,916千円

(2) 事業活動

① 個別外出支援

月に1回鳥取県内中部地区の商業施設や近隣散歩等ご利用者様の社会参加を促進した支援を実施します。

② 保育園との交流会

法人内保育園児とのふれあい交流を実施します。

踊り、歌、太鼓等 (1回/4ヶ月)

③ 地域・家族交流会（福祉の里夏祭り、文化祭）

8月、11月にご利用者様・ご家族様、法人内施設ご利用者様、地域住民の方々等と交流を図ります。

- ・主な内容：（夏祭り）職員出しもの・屋台・地域住民出しもの
（文化祭）作品展示・職員出しもの・ご利用者様とご家族様とのふれあい（手作り料理）

④ 地域とつながるコスモスプロジェクト

施設周辺に黄色いコスモスを咲かせ、ご利用者様や地域の皆様に季節を感じていただきます。また、咲いた花で創作活動を行い、作品を近隣地域の文化祭へ出展、収穫した種の配布等、黄色いコスモスを通じて地域との交流に繋がります。

⑤ オンライン面会

新型コロナウイルス感染予防対策として直接の面会を制限する場合は、タブレット端末を活用したオンラインでの面会を提供し、ご利用者様がご家族様や知人と会う楽しみを維持します。

4 安全管理・衛生管理

- （1）ご利用者様が安全で安心して日常生活を送れるようリスクマネジメントの強化を図り、ヒヤリハット・アクシデントの収集と分析を行い事故防止に努めます。
- （2）ご利用者様が安心して生活できるよう、設備・器具及び備品等の安全管理を行い、物品等の整理整頓及び福祉用具等のメンテナンス等環境整備や建物の安全点検を行います。
- （3）感染症予防のための衛生管理、衛生教育の徹底を図ります。
- （4）新型コロナウイルス感染症については、手洗い、マスクの着用、手指消毒、検温、行動確認を徹底し、三密を避ける環境作りや共用部分の消毒を適宜行うなど、常に感染予防に努め、感染拡大防止に十分に配慮します。
施設関係者に感染者・濃厚接触者等が発生した場合は、迅速に関係機関及び法人本部と連携を図り、適切な対応に努めます。
- （5）ご利用者様の健康管理として、健康診断（2回／年）、歯科医による（1回／月）口腔ケア指導により誤嚥性肺炎予防、口腔機能維持に努めます。また、ご利用者様の食事終了時までの見守りを行っていきます。
- （6）送迎業務の運転手について健康状況や体調等を把握し、適任者に運転をさせるとともに、必要に応じて運転手以外にも職員を同乗させるなどして、安全な送迎に配慮します。
- （7）車両について使用前の日常点検などの安全管理を徹底するほか、運転の状況を把握するため、運転日誌等の記録を行います。
- （8）職員に対し、道路交通法等関係法令を遵守し交通安全に努めるように、研修などを通じて安全教育を実施します。また、運転者ごとに運転前と運転後にアルコール検査を行い、運転者の酒気帯び運転を防止します。

5 防火・防災、救助体制

防災計画及び災害対応マニュアルにより、防災及び災害時の人命の安全、被害の軽減を図ります。

- （1）ご利用者様、職員の訓練、周知として避難訓練（昼・夜間訓練、地震想定、消火訓練、通報訓練）を年2回以上実施するとともに、水害時の避難確保計画に沿った実地の避難訓練を実施します。（1回／年）

- (2) 消防用設備（自動火災報知機、自動火災通報装置、スプリンクラー設備等）の点検（2回／年）、電気設備管理（1回／2ヶ月）、空調設備・ボイラー点検（2回／年）、地下タンク点検（1回／年）及び防災自主点検（1回／2ヶ月）を実施し災害時の被害を最小限にとどめます。
- (3) 有事の際の備蓄品は、常時3日分備蓄します。（水ペットボトル500m・150本・レトルトうどん150食・レトルト米飯150食）

6 職員の資質向上と研修

(1) 外部研修会への参加

福祉に従事する職員に求められる基本姿勢、専門的知識・技術、意識改革等の資質向上と組織が必要とする人材が効果的に育成できるよう研修会に参加します。

(2) 法人内部研修への参加

法人内の各部会や研修に職員を参加させ、全職員のスキルアップを図ります。

(3) 施設内のOJT・職場研修の実施

OJT（職場を通じての研修）、OFF-JT（職場を離れての研修）、SDS（自己啓発援助）などの研修を実施し、職員の職業倫理を醸成することでご利用者様サービスの向上を図ります。

(4) 職員の資格取得のための取組み

① 法人の「国家資格等取得者に対する助成要領」による資格取得に対する助成制度を活用し、職員の取得意欲の増進とキャリアアップを促します。

② 介護福祉士等の資格取得に向けた勉強会を実施します。また、職員を資格取得のための研修等に積極的に参加させます。

③ 喀痰吸引・経管栄養実施のための認定特定行為業務従事者を育成します。

(5) 職員間の日常的連携、報告、連絡、相談の徹底

「職員間の連携」と「報告・連絡・相談」が業務の効率化やサービスの質の向上、事故・トラブルの未然防止を図るために重要であることを全職員が認識し業務遂行できるよう、職員教育と風通しの良い職場作りに努めます。

7 SDGsの取組み

「福祉の里SDGsアクションプラン」に基づいて取組みを実施します。

目標：3 すべてのために健康と福祉を

目標：11 住み続けられるまちづくりを

①職員による地域での清掃活動やボランティア活動、専門職の派遣等、施設の資源を地域へ還元します。

目標：12：つくる責任・使う責任

②嗜好と栄養を両立した食事を提供し、食品ロスを最小限にします。

目標：8 働きがいも経済成長も

③介護補助機（介護ロボット）の活用、有給休暇の取得率の向上等、働きやすい職場環境を確保します。

8 職員の健康維持・増進の取組み

職員の健康管理として、健康診断（夜勤者・宿直者は2回）、メンタルヘルス（ストレスチェック）、腰痛予防対策（就業前の腰痛予防ストレッチ）を実施します。

9 各種団体との連携と地域交流

(1) 広報誌の発行・配布

発行回数：4回／年 配布先：ご家族様、他施設、関係機関

(2) 地域交流事業

福祉の里の施設が主催する地域交流夏祭りにご利用者様、ご家族様に参加していただくとともに、地域の住民の方々との交流を図ります。

(3) 各種団体との連携

関係機関（市町村・相談支援事業所）との連携を強化するため、相談支援事業所を定期的に訪問し、情報交換を図ります。

(4) 開かれた施設

施設見学、ボランティア及び学生現場実習の受け入れを行い、地域の理解と協力を得るよう努めます。

10 年間行事計画

別紙参照

別紙

令和5年度 行事計画表

施設名 :サンジュエリー

月	行 事		会 議		職員研修		安 全・安 心	施設整備・点検
	施設内	施設外	施設会議	外部主催会議	法人・職場研修	外部主催研修		
4月	・創立記念日(会食) ・誕生会	・花見外出 ・個別外出支援	・職員会議 ・支援会議 ・委員会		・ハラスメント、プライバシー(施設内) ・新任職員研修(法人) ・接遇部会(法人)	・外部機関研修会	・細菌検査(給食職員) ・体重測定(1回)	・電気保安管理 ・消防用設備自主点検 ・環境整備 ・洗車
5月	・誕生会 ・バイキング昼食	・春の遠足 ・個別外出支援	・職員会議 ・支援会議 ・委員会 ・給食検討会議 防災会議		・感染症予防(施設内) ・接遇部会(法人)	・外部機関研修会	・細菌検査(給食職員) ・体重測定(1回) ・防災訓練(水害)	・環境整備 ・洗車
6月	・誕生会 ・お楽しみランチ ・スイーツ作り	・個別外出支援	・職員会議 ・支援会議 ・委員会	・倉吉市社会福祉施設連絡協議会	・満足度調査(施設内) ・急変時の対応(施設内) ・接遇部会(法人)	・外部機関研修会	・細菌検査(給食職員) ・体重測定(1回)	・電気保安管理 ・消防用設備自主点検 ・ボイラー点検(切り替え) ・環境整備 洗車
7月	・七夕夕食会 ・誕生会	・個別外出支援	・職員会議 ・支援会議 ・委員会 ・給食検討会議	・鳥取県身体障害者福祉施設協議会 (施設長会)	・感染症予防(施設内) ・接遇部会(法人)	・外部機関研修会	・細菌検査(給食職員) ・体重測定(1回)	・環境整備 ・洗車
8月	・誕生会 ・花火大会 ・ご当地メニュー(給食)	・個別外出支援	・職員会議 ・支援会議 ・委員会 ・防災会議	・鳥取県身体障害者福祉施設協議会 (支援員部会)	・サービス自己評価(施設内) ・接遇部会(法人) ・管理職研修(法人)	・外部機関研修会	・細菌検査(給食職員) ・体重測定(1回) ・防災訓練(夜間想定)	・電気保安管理 ・消防用設備点検(業者) ・消防用設備自主点検 ・環境整備 洗車
9月	・運動会交流会 ・誕生会 ・お楽しみランチ	・個別外出支援 ・福祉の里まつり	・職員会議 ・支援会議 ・委員会 給食検討会議 ・個別支援計画聞き取り	・鳥取県身体障害者福祉施設協議会 (給食部会)	・リスクマネジメント(施設内) ・接遇部会(法人)	・外部機関研修会	・細菌検査(給食職員) ・体重測定(1回) ・健康診断(全利用者・全職員)	・環境整備 ・洗車
10月	・誕生会 ・屋外昼食会 ・お楽しみランチ	・秋の遠足 ・個別外出支援	・職員会議 ・支援会議 ・委員会 ・防災会議	・鳥取県身体障害者福祉施設協議会 (保健部会)	・虐待防止(施設内) ・接遇部会(法人)	・外部機関研修会	・細菌検査(給食職員) ・体重測定(1回) ・防災訓練(不審者対応)	・電気保安管理 ・消防用設備自主点検 ・ボイラー点検(切り替え) ・環境整備 洗車
11月	・文化祭(家族交流会) ・誕生会	・向山作品展(参加・出品) ・福祉の里文化祭 ・個別外出支援	・職員会議 ・支援会議 ・給食検討会議 ・委員会		・感染症予防(施設内) ・接遇部会(法人) ・中堅職員研修(法人)	・外部機関研修会	・細菌検査(給食職員) ・体重測定(1回) ・インフルエンザ予防接種	・環境整備 ・洗車 ・地下タンク点検
12月	・クリスマス交流会 ・忘年会 ・誕生会		・職員会議 ・支援会議 ・委員会		・リスクマネジメント(施設内) ・接遇部会(法人)	・外部機関研修会	・細菌検査(給食職員) ・体重測定(1回)	・電気保安管理 ・消防用設備自主点検 ・環境整備 ・洗車
1月	・とんど祭り ・新年会 ・誕生会 ・お楽しみランチ	・初詣	・職員会議 ・支援会議 ・委員会 ・給食検討会議		・感染症予防(施設内) ・接遇部会(法人)	・外部機関研修会	・細菌検査(給食職員) ・体重測定(1回)	・消防用設備自主点検 ・環境整備 ・洗車
2月	・節分 ・バイキング昼食 ・誕生会		・職員会議 ・支援会議 ・委員会 ・防災会議		・身体拘束の適正化(施設内) ・接遇部会(法人) ・一般職員研修(法人)	・外部機関研修会	・細菌検査(全利用者・全職員) ・体重測定(1回) ・防災訓練(日中想定) ・健康診断(全利用者・全職員)	・電気保安管理 ・消防用設備点検(業者) ・環境整備 ・洗車
3月	・ひな祭り交流会 ・誕生会 ・お楽しみランチ	・個別外出支援	・職員会議 ・支援会議 ・委員会 ・個別支援計画聞き取り		・次年度事業計画説明 ・接遇部会(法人)	・外部機関研修会	・細菌検査(給食職員) ・体重測定(1回)	・環境整備 ・洗車

※委員会…虐待防止及び身体拘束適正化委員会、リスクマネジメント委員会、感染症対策委員会、QOL向上委員会、苦情解決委員会(随時)